

平成 2 1 年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	クリスマスすまいるコンサート
団体名	NPO法人ファミリーねっとスマイル
市担当課名	子育て支援課
事業の目的	孤立化しやすい現代の子育て中の親子が楽しみを「共有」することができる場（クリスマスイベント）を提供する。
事業の実施内容	10月上旬：ポスター・チラシ作成、チケット販売 12月17日：クリスマスすまいるコンサート実施 《実施内容》 ・実施場所：西文化会館ホール11時開場～13時30分終了 （11時30分開演、13時30分終了、出口でサンタさんからこどもたちにお菓子のプレゼント） ・参加人数：132人（参加58組+参加追加分のお子さん16人）
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・企画、劇団との調整、広報、地域への声かけ 等
	川越市の役割 ・広報への掲載、市の施設へのポスター・チラシの掲示 等
事業の成果	本事業の提供により、楽しいひとときを皆で共有することができ、事業実施時に行った参加者アンケートにおいても非常に好評な結果となった。 また、参加していただいたお母さん達で子育てに関する悩みや話し合いも行われ、その結果として子育ての活力の向上につながる等、“楽しいイベントの提供”以上の成果が表れたと思います。 さらに、こどもたちにとっては、皆で団体行動するという「協調性」や、出題されたクイズをこどもたちが自分で考えて答えるといった「自主性」の醸成に寄与できました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	本事業の開催にあたっては新型インフルエンザ流行の影響もあり、当初予定していた参加者数（100組）を大きく下回る結果（58組）となりました。 参加者数を増加させるためには、事業の周知方法等を強化してきくことを検討していきます。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	イベント事業は参加者数の見込みが難しく補助金を頼る部分が多い。今回は特殊事情があったものの、今後についても大幅な赤字がでるような事業となった場合、事業を継続していくことは難しいと思います。

平成 2 1 年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	自治会館を利用した子育て支援事業
団体名	野田町一丁目自治会
市担当課名	保育課
事業の目的	自治会館の一部を活用して「地域による子育て中の親のための育児支援」を実施する。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年8月下旬 地域内の子育て中世帯把握のための回覧版を回す。 ・同年9月に参加希望所帯の一部を把握した。 ・同年10月、本事業に必要な備品を購入する。 ・同年11月2日から、週3日(月-水)の午前9時から、午後5時迄、自治会館の和室(約12畳)を開放して「地域子育て支援事業」を開始した。 <p>運営は、利用者の自主管理、自己責任を前提として開始されています。</p> <p>昨年未までは、平均4世帯、6人程の児童で利用していましたが、その後はインフルエンザ注意と寒さの為に利用のない日もあり、今後、温かくなつての利用が期待されている。</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割
	<p>地域の対象者等への周知・参加の呼びかけ、自治会館の一部の開放、玩具等の整備</p> <p>川越市の役割</p> <p>子育てに関する市の施策等の情報提供等</p>
事業の成果	<p>この事業は地域の子供を対象としており、その中心となるのは幼児が多い状況に有ります。そのため、幼稚園等に通う前の幼児にとっては、家族ではない「友達」を認識するという効果が出ています。</p> <p>また、子育て中の親にとっても育児上の悩みごと等を話合える事で情報の共有化が図れ、悩みごとの解消に一役かっている状況であり、地域における子育て支援として効果が表れつつあります。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>継続する上での課題と致しましては、地域内の育児支援の対象となる親子の把握が自治会のみでは難しく、自治会から参加を促す働きかけがしにくい状況に有ります。</p> <p>現時点での対応としては、参加者に地域内の知り合い等に声かけをしていただいております、時間はかかるが徐々に醸成していく予定としています。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>継続することを前提に事業を実施致しましたが、補助金が無くなると備品や消耗品等の経費すべてが自治会負担となるため、事業の拡大は見込めない。</p>

様式第 8 号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成 2 1 年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	親子で知るやまの楽しみ（循環型農業）
団体名	福原ファームクラブ
市担当課名	環境政策課
事業の目的	土に触れることの少ない親子（特に父親）に川越の農業（環境保全型農業）を知ってもらい、賢い消費者となり、農業を理解してもらう。
事業の実施内容	<p>各回ごと講師とクラブ協力者の指導のもと、農作業等に從事してもらい、川越の農業に親しんでもらう。作業後に12月は「芋煮」1月は「豚汁・焼き芋」を提供しみんなで食事をとることにより一緒に食べる「楽しさ」を感じてもらう。</p> <p>第1回：12月20日（日） 参加者名 38名(協力者 8名含) 農作業体験 里芋掘り、ブロッコリー畑の収穫・片付け 途中と食事後に講師から福原の農業の成り立ち等について説明</p> <p>第2回：1月16日（土） 参加者 38名（協力者6名含） 雑木林の手入れと落ち葉はき 自然観察を行うとともに、「やま」の使い方と「火」の起こし方等の話を作業の中でおこなう。使う道具に関しても日本古来の物であることを話す。</p> <p>いずれも午前10時から午後1時まで</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>【市民活動団体の役割】 事業の企画、協力農家との調整、会場の確認、近隣農家への挨拶や駐車場の手配、講師依頼・調整、事務手続きなど</p>
	<p>【川越市の役割】 協働事業であることの広報誌掲載</p>
事業の成果	<p>この企画で今まで循環型農業の現場に接したことがない世代が実体験して、農業への理解が多少深まったといえる。環境面でも川越の雑木林の成り立ちを理解出来き、守り、活用できる協力者としての意識がもてた。応募者に農業を目指す若者が参加してくれて、体験の場の提供として有意義な企画になった。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>事務局が参加者対応を受付、連絡しなければ農家だけでは対応が難しい。宣伝方法としては川越市との協働事業なら公共的な場所に掲示できるが、なければ口コミでの参加者募集になってしまう。</p> <p>金額的には農具の購入にかかるだけで毎年購入するものでもないのに、継続する場合は広報の宣伝が重要と思います。</p> <p>年間計画に組み込んで対応したいので、補助金の決定等を早めにしていただきたい。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	福原ファームクラブとして継続して活動します。

平成21年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	歴史まちづくり法を活用したまちづくりの調査研究
団体名	川越織物市場の会
市担当課名	都市計画課
事業の目的	歴史まちづくり法シンポジウムを開催し、この法律の川越市における活用の可能性について調査研究し、かつ、広く市民にこの法律の活用の可能性について周知する。
事業の実施内容	平成20年5月16日に成立し、同年11月4日に施行された歴史まちづくり法（地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律）は、多くの文化財建造物を有し、かつ、歴史的または伝統的な人々の活動が存在する川越市において、その活用による、新しいまちづくりの展開を可能とすると思われる。そこで、すでに実施した地域である茨城県桜川市（真壁地域）を訪問調査するとともに、この法律を所轄する文化庁及び国土交通省並びに前記茨城県桜川市（真壁地域）から担当者を招き、また、すでに実施している地域である亀山市の計画作成にも関与した三重大学の准教授を招き、歴史まちづくり法シンポジウムを開催した。シンポジウムでの報告をしたパネリストの紹介及び報告内容は、添付の当日資料の通り 当日参加者数120名
事業実施時における市との役割分担	【市民活動団体等の役割】 現地調査の実施・シンポジウムの開催（シンポジウムの開催準備・講師との打ち合わせ・広報宣伝・当日の運営）
	【川越市の役割】 現地調査及びシンポジウムへの参加
事業の成果	平成20年5月16日に成立し、同年11月4日に施行された歴史まちづくり法（地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律）の、既存の都市計画・景観行政との関係、文化財保護行政との関係、この法律の中心概念の「歴史的風致」の意味、この法律の仕組み、いままでの実施例の実際などについて、立体的に学ぶことができ、今後の川越における適用の可能性、川越市と市民の役割について、十分に知ることができた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	今後は、歴史まちづくり法を具体的に川越市で実施していく作業が中心となるが、中心的役割は、川越市となるので、同法に定める市民参加の仕組みに従い、市民としても具体化にむけて、必要な協力をしていきたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	今回の事業は川越織物市場の会とNPO法人川越蔵の会の共同主催であるが、補助金終了後は、両団体の独自財源で調査研究普及事業を継続して、川越市における歴史まちづくり法事業の具体化を実現できるよう必要な協力をしていく所存である。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成 2 1 年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	「110番の家」が子どもやおとなにとって、ふれあいの中核となる試み
団体名	特定非営利活動法人 地域と教育
市担当課名	青少年課
事業の目的	学校や「110番の家」を起点として、「防犯」と「防災」をみんなで考える。また、そのために必要な地域住民の連帯、気軽に挨拶を交わす交流のあるまちを創造する。
事業の実施内容	平成 2 1 年 1 0 月 3 1 日、高階北小学校及び同小学校区で実施。 9 : 0 0 ~ 1 0 : 0 0 集合、全体説明・各班ルート検討 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0 「110番の家」巡り(同小学校区に108軒) ・定められたポイントと各チーム(5 ~ 8名)で考えたルートを通過し学校に戻る。各「110番の家」の方には丁寧に挨拶・自己紹介してスタンプを押印してもらう。速さを競うものではない。笑顔での交流を徹底。 ゴール後用紙チェック 昼食引き換え券・午後のスケジュール表配布 1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0 昼食...校庭にて 1 3 : 0 0 ~ 消防署の協力により、消火と防災についての話、放水・水消火器の使用等。その後、防災運動会(パケツリレー等) 1 5 : 0 0 終了 参加者-学校(教職員)11名、PTA・子ども育成会45名、おやじの会36名、自治会・婦人会43名、近隣住民80名、高階北小生徒561名(含川越消防組合署員5名)参加者合計776名。 当日の様子は川越ケーブルテレビで放映されました。
事業実施時における市との役割分担	【市民活動団体等の役割】 企画-「地域の中で何が必要か」を半年かけて検討 広報- 地域住民へ主旨説明
	【川越市の役割】 地域住民との関係性構築へのバックボーン...市協賛という地域住民の安心感 会場提供...市立小学校を使用。
事業の成果	この地域は新旧住民が混在する地域であり、新住民の多くはこの地で子育てをします。このような土地柄を鑑みながら今回の企画を検討したのですが、双方が交流できる場となるとともに、「防犯」と「防災」を地域で考える場にもなったのではないかと思います。 事業の成果としては、小学校区全体のコミュニティやアソシエーションが何らかの関わりをもっていただけたように思います。子どもたちと地域の皆さんとの間に生まれた交流の記憶を今後も大切にしていかなければなりません。これからも、今回のような「場」を創造していくことが肝要であると思います。そのためには、一人でも多くの意思ある住民の糾合を図っていかなければなりません。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	今回の企画の主旨、今後の方向性を地域住民の皆さんと再度確認する必要があります。継続する場合の市と協働して果たすべきは“何”なのか、しっかりと討議していかなければなりません。そのための話し合いを有志で定期的に行ってまいります(月1回)。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	このような事業は今後も継続していかなければなりません。そのために必要な資金、企画等、衆知を集めなければならないと思います。補助金が終了したとしても、地域住民の意思の集約は継続します。

平成 2 1 年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	アートによる地域ネットワーク促進事業
団体名	アルテクルブ
市担当課名	中心市街地活性化推進室
事業の目的	2008年度に開催されたアートイベント「あるってアート2008」を発展させ、「あるってアート」の今後の開催に向けて、活動の公共性と継続性をねらい、地域のネットワークを広げることを目的としたシンポジウムを開催する。
事業の実施内容	<p>シンポジウム「あるってアートで こどもたち壁画描く」開催 開催日時：平成22年2月20日（土）午後2時から午後4時30分 開催場所：川越市産業観光館（旧鏡山酒造ギャラリー）、参加者約20名</p> <p>【第1部：講話】 木谷安憲 氏（「あるってアート」参加アーティスト・埼玉県立芸術総合高校教諭） テーマ「鏡山壁画ワークショップと子どもたち、そのほかのワークショップについて」 田中晃 氏（川越市立名細中学校教諭 美術科主任・元埼玉県立近代美術館 学校・教育普及担当課長） テーマ「美術館と学校での、子どもたちの美術教育を通して、美術教育における美術館の役割、学校での美術教育の実際、課題、ワークショップというアートのかたちなどについて」</p> <p>【第2部：座談会】 パネリスト：木谷安憲 氏、田中晃 氏 司会：小野寺優元（あるってアート2008 アート・ディレクター・彫刻家）</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体の役割： 協働を推進するうえで、1つの団体と行政との協働のみではなく、他団体と連携し活動の公共性と公平性を図ること必要であると考え、他団体との連携・協働を目標とした事業展開を行った。
	川越市の役割： 広報、情報提供、会場提供
事業の成果	<p>このシンポジウムでは、2007・2008年度に行われた小江戸川越観光ルネサンス事業「あるってアート2008」で実施した「鏡山 壁画ワークショップ」で指導にあたった木谷氏からは“公開の場で子どもたちが絵を描くことの意義”や“アーティストが指導することの重要性”について話があり、また、田中氏からは経験に基づいた“ワークショップという手法の効果”や“アウトリーチ手法で行った学校での美術教育”などをお話しいただきました。</p> <p>参加者に対して行ったアンケート結果についても大変好評であり、「子どもたちとのワークショップ」の必要性・重要性について周知できたと考えます。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>1、活動を継続させるためには、市・教育委員会・学校・自治会・商店街組織などとの連携がさらに必要となる。そのための広報活動と、コミュニケーションが求められる。</p> <p>2、アートは収支のバランスが取りにくい分野である。協働事業補助率1/2は、自己資金の調達負担が大きい。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	平成22年度11月に計画しているアートイベントは、埼玉県との協働事業で文化庁より助成を受ける予定である。

様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成21年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	特定非営利活動法人 川越蔵の会
団体名	体験！川越の職人の技
市担当課名	観光課
事業の目的	普段あまり市民との接点のない職人さんたちを紹介することで、職人さんの仕事を通して川越の文化に対する認識を深めてもらい、さらに自分で何でも作れることを体験してもらうことで、参加者のエコロジ－な生活への契機とすることを目的として行われた。
事業の実施内容	旧川越織物市場の中庭を会場として、大工、鍛冶、庭師の3職種の職人コーナーを設け、体験型のワークショップを開催。各コーナーでのワークショップの内容は次の通り 大工：鮑がけ、鋸挽き等の体験による椅子、写真立ての製作、木組模型を使ったクイズの実施（アースデイクイズラリーの一環） 鍛冶：ペーパーナイフづくり、木挽き職人が使う大鋸の体験切り、大鋸の展示 庭師：竹垣づくりの実演、竹を使った一輪ざし、シュロ縄を使ったトンボの製作
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 事業に参加する職人との事前調整、アースデイ実行委員会との調整、会場設営、当日のイベント運営管理 川越市の役割 当日のイベント運営管理
事業の成果	ワークショップ当日の会場（旧織物市場）への入場者数は推定約300名、実際にワークショップに参加した人数は名簿記載者で81名だが、記帳せずに体験だけ行った人もかなりいるため、実際の参加者は100名を超えるものと思われる。 当初目的と照らし合わせて事業の成果を考えると、職人さんの仕事を通して川越の文化に対する認識を深めるということに対しては、来場者の多くの方が興味を持って職人の仕事や展示パネルなどを見たり、職人と話をしたりしていた様子で、一定の成果が上げられたものと考えられる。 また、実際の体験を通して参加者のエコロジ－な生活への契機とするということに対しては、参加者の多くが子供であったため、仕事を通じた環境問題という考え方がどれだけ伝わったか疑問が残る。しかし、親と同伴で来場した方々は親の方から子供に語りかける場面も見られ、イベントの主旨が理解されたと考えられる。また、見学するだけという方も多くいたが、ちょっとした工夫や楽しみながら手を動かすことで、エコロジ－な生活につながっていく、ということを考える契機にはなったものと考えられる。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	事業の実施時期と補助金確定時期の調整。今回は10月25日のアースデイ実施が確定しており、これに対して補助金交付の確定が10月に入ってからであったため、川越市との協働があまりなされずに準備が進んだ。 今後は申請時期を早め、屋外でのイベントなど暖かい時期に実施可能なように、また市民活動団体としても年度の活動について予算も含めて早めに計画立案が可能ないように補助金交付の確定がなされるとよい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	NPOとして事業に出費できる金額は限られているため、補助金が終了した場合、同様の事業を今後も行うためには事業規模の縮小しか考えられない。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成 2 1 年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	庶民の伝統文化落語の振興事業
団体名	蓮馨寺落語会世話人会
市担当課名	生涯学習課
事業の目的	「伝統的な話芸」として完成した芸能、落語について、川越出身の 2 名の落語家 2 名にゲストを加えた寄席を定期的に地域寄席として、歴史と伝統のまち川越で開催することにより、落語の発展に寄与しようとするとともに、地域の活性化や文化的な振興を図ろうとするものです。
事業の実施内容	川越出身の 2 名の落語家をレギュラーに、ゲスト 1 名での落語会の実施。 ともに午後 6 時開場、午後 6 時 3 0 分開演、午後 8 時 3 0 分閉会 1 回目：平成 2 1 年 1 0 月 3 0 日（金） 演者：古今亭志ん八、三遊亭遊喜、三遊亭窓里 参加者：7 0 名 2 回目：平成 2 2 年 1 月 1 5 日（金） 演者：古今亭志ん八、三遊亭窓輝、三遊亭窓里 参加者：6 5 名 なお、当落語会は、若手落語家の育成、勉強の場としての機能も有しています。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 地元の N P O 法人の協力による会場の設営、落語会の司会進行、ポスター、パンフレット、案内状等の作成・配布、落語会の実施。 川越市の役割 広報紙への掲載
事業の成果	いずれの会も常連の方に限らず、初めての方・遠い方、近い方。幅広い年齢層の参加者があり、落語の寄席の開催を通じ、地域に賑わいをもたらすとともに、伝統文化に親しんでいただくことができたと思います。 特に、1 0 月の第 1 回は出演した落語家 3 人のうち 2 人が川越出身、残る 1 人は現在川越に住む落語家でした。必ずしもこのような結果になるとは限りませんが、タイミングも良く参加者の方にもより楽しんでいただくことができたと思います。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	蓮馨寺落語会は毎年 1 月、4 月、7 月、1 0 月の年 4 回開催しています。今年で 4 年目になります。今回協働事業として実施した 2 回の落語会は、市の役割を「広報紙への掲載」としましたが、今後は庶民の伝統話芸である落語を、継続的な事業として川越に根付かせることが大事であると考え、協働で推進する際の課題を洗い出しをしたいと思います。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	蓮馨寺落語会のような地域寄席の世話人の一番の悩みが落語家への出演料と場所。落語家に出演してもらうには、ある程度のギャランティーが発生します。一方多くの方に見ていただくためには入場料は高く設定できません。さらに、開催する場所の一定期間の確保にも苦労します。当会は場所は、蓮馨寺のご厚意で確保はされていますが、出演料はどのような形でも継続的に発生します。こうした、補助金の行政からの継続的な援助は、川越では蓮馨寺落語会が初めてですが、全国的には行政から補助金のような形で継続して行われている例もあります。補助金が終了した場合、入場料の引き上げや、開催回数削減若しくは休会。身近で伝統芸能が見られる数少ない場所がそうした事にならないよう努力していきたいと考えます。

様式第 8 号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成21年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	地域交流創造フォーラム
団体名	川越市NPO法人協議会
市担当課名	市民活動支援課
事業の目的	この事業は、新しい地域の創造をテーマにした講演やパネルディスカッションを通して、参加者同士の意見交換や交流を図り、もって地域コミュニティのあり方を考えることを目的とする。
事業の実施内容	『地域交流創造フォーラム』の開催 ・日時：平成22年2月7日（日）午後1時30分～午後4時30分 ・場所：川越市民会館2階会議室 第1部講演、テーマ「川越市における市民活動について」 講師：笹森清 氏（NPO法人地域創造ネットワーク・ジャパン副代表） 第2部パネルディスカッション、テーマ「川越市の地域社会を考える」 パネラー：中村博行 氏（NPO法人 土と風の舎・副代表） 鈴木 静 氏（NPO法人ファミリーねっとスマイリ・代表） 福田喜文 氏（NPO法人川越蔵の会・副代表） 渋谷不二雄氏（川越市市民活動支援課） パネルディスカッション前半は、市内でNPO活動を展開する3つの団体の活動紹介と、川越市の協働に対する考えなどを伺い、後半は参加者から多様な意見を聞いたうえで、市内の地域活動の課題や行政との協働事業の進め方などについて討議した。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割：川越市内NPO法人の実態を把握し、フォーラムへの参加を呼びかけるなど、法人間の連携に努めた。また、関心のあ一般市民や任意団体等へもフォーラムに参加してもらおうと広報をおこなった。 川越市の役割：市内の公民館や公共施設等へのチラシ・ポスターの配架等の広報協力。また、フォーラムのパネラーとして市の担当課長を迎え、市の協働に対する考えを述べてもらった。
事業の成果	・NPO法人関係者のみにとどまらず、幅広い立場の市民の参加によって、交流の場を実現し、多様な意見を交わすことができた。 ・講演やパネルディスカッションを通して、川越市内のNPO活動の実践例や、その課題等を参加者に伝えることができた。 ・参加者に、川越市でのNPO活動や地域活動等への関心を高めてもらうことができた。（アンケートへの記述等により確認） ・パネラーやコメンテーターと参加者との意見交換により、川越市の地域活動の課題を明らかにすることができた。 ・「新しい公共」についての認識や市民の役割について共通理解を広めることができた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	・補助事業費の2分の1の自己資金を調達することが難しい。 ・市の公共施設を会場にする場合、会場費を無料とするなどの措置があると経費の節約になり、協働事業としての意義が高まる。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	・参加者アンケートに、川越市内でのNPO活動や地域活動に対する期待や要望が多数記載されており、補助金事業終了後も、各法人や団体のネットワーク化をすすめていく。今回の協働事業の実施により、その方向性を見出すことができた。

様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成21年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	次世代の為の童謡普及事業
団体名	童謡アルバム実行委員会
市担当課名	生涯学習課
事業の目的	親から子供へぜひうたい継ぎたい日本の美しい心の故郷、昔からの日本の忘れかけた大事な文化を童謡を通して知っていただき歌い継いでもらう。
事業の実施内容	<p>乳児を同伴し参加できる場所として、会場を川越幼稚園に設定した。 10月から毎月1回、土曜日の午前10:30~12:00 計6回開催。 ソプラノ光信幸恵がピアノ&歌でリード&レクチャーし、用意したテキストを見ながら参加者全員で楽しく歌いました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10/31 *ゲスト醍醐紀子(ヴィオラ) 参加者18名。 2. 11/21 *ゲスト市川美和(クラリネット) 参加者14名。 3. 12/19 *ゲスト稲垣桃子(ヴァイオリン) 参加者11名。 4. 1/23 *ゲスト市川美和(クラリネット) 参加者25名。 5. 2/20 *ゲスト光信利彦(トランペット) 参加者25名。 6. 3/27 *ゲスト光信利彦(トランペット) 参加者15名。 <p>参加費、大人一人500円(子供無料)</p>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 事業企画、演奏者交渉、広報
	川越市の役割 広報(広報紙掲載、市立保育園等へのポスター掲載等)
事業の成果	<p>当初予定していた参加者見込みよりも、かなり参加者が少なかった回もありましたが、事業の目的としていた童謡の伝承について歌うことを通じて実施できたと思います。</p> <p>童謡として歌われる内容についても、解説を行いましたので、“歌の生い立ち”についても理解をいただけました。</p> <p>アンケート等はとっておりませんが、事業終了後には参加された方から大変満足したとのコメントをいただいております。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>この事業を継続していくには、事業周知と参加者の確保等が課題であると考えます。</p> <p>対応策といたしましては、より多くの方に参加いただくため、参加者の募集方法等について、事業の実施前より市と打ち合わせを行い周知方法を検討します。また、実施時期についてもインフルエンザ等が流行する冬場を避ける等の検討していきたいと考えます。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>日本の大切な文化を童謡を通じて伝承していく事業ですので、継続していきたいと考えます。しかしながら、事業実施に必要な経費の節減が新たな課題となります。</p>

平成 2 1 年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	子ども大学かわごえ学園祭 “ こどもがつくるまち「ミニかわごえ」 ”
団体名	N P O 法人子ども大学かわごえ
市担当課名	生涯学習課
事業の目的	子ども大学かわごえ教育方針の一つ「生き方学」の体験版として、子どもたちが主人公として川越市のミニチュア版「ミニかわごえ」のまちづくりをし、そのなかで職業活動をするにより市民としての体験学習をする催しを実施する。
事業の実施内容	3月13日と14日の両日、市内蓮馨寺の境内を借りて子どもたちが職業体験をする「こどものまち」をつくる。市民登録所、職業紹介所、銀行、税務署等の店舗の他様々な作業所や工房、食べもの屋やゲームセンターなどの店舗を配置し、子どもたちが働いて生産活動を行い、おカネを稼ぎ、それを使って消費活動をする場をつくる。そしてそのようなまちづくりを子どもと大人が力を合わせて行う。 なお、この「ミニかわごえ」は川越市との協働事業として、川越市の4小学校(川越、川越第一、中央、仙波)、県立川越工業高校、城西川越中学校、高階中学校、中央区子どもサポート委員会、川越青年会議所等の協力のもとに実施。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 事業の計画&実施
	川越市の役割 関連情報の提供、広報活動の支援など。
事業の成果	3月13日と14日の両日で、子どもと大人を合わせて約2000人の来訪者があった。 子ども(小学生)の登録者数は2日で596名であった。登録は1回で2日間有効なので、2日目に来訪したリピーターを含めて2日間に来場した小学生の数は700人強と思われる。それに加えて中学生と高校生約120人が参加、小中高生全部を合わせた子どもの人数は850人~900人と思われる。 こどものまちに出展された店舗は73で、当初計画の50店舗を約50%上回った。会場の広さから考えて、来場者の人数は多すぎず、少なすぎず理想的であった。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	今年の会場は蓮馨寺境内であったため、来場者の人数を制限する必要があった。(来場小学生は、子ども大学生徒と川越市内4小学校の児童に限定した)。 来年はより広い会場を使用して、来場者の制限を外したい。会場の候補地としては、県立川越工業高校などが考えられる。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	子ども大学かわごえの「生き方学」体験学習の行事として、毎年3月に実施する。

平成 2 1 年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	視覚障害者によるコンサート
団体名	NPO法人 らぶ・あいず
市担当課名	障害者福祉課
事業の目的	視覚障害者への理解を広めるための活動 視覚障害者が仕事をもち地域社会と関わり通して充実した豊かな日々が送れるようサポートする事業
事業の実施内容	「らぶ・あいずコンサート」の実施 日時：平成 2 2 年 3 月 6 日（土）1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0 場所：埼玉県立特別支援学校塙保己一学園 寄宿舍プレイホール 指 導：山口伊助先生 ゲスト：金子ヨリ子先生（ピアノ） 参加者数：3 0 名 今回は、NPO法人らぶ・あいずが運営している視覚障害者支援施設らぶ・あいずに通ってきているメンバーが日頃音楽教室で学んだことを発表する場としてコンサートを行いました。 視覚障害者による合唱や合奏、ピアノ演奏、指導してくださっている先生の歌などを行いました。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 事業企画、広報
	川越市の役割 広報（市役所へのポスター掲示等）、川越市教育委員会による後援
事業の成果	当日、天候も悪かったが多くの方が参加して下さり、音楽教室の先生が、話し上手で、参加された方も楽しめる内容でした。 子どもたちも日頃の練習成果により、合唱、合奏も楽しんで行なっていました。川越ケーブルTVの方に取材に来て頂き、放映して頂けることでより視覚障害者のことを知ってもらうことができた。川越ケーブルTVの方には、視覚障害者の施設の話から色々話をさせて頂き一人でも多くの方に知って頂けることになった。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	もう少し市の方とどうしたら宣伝効果が上がり、多くの市民の方に来ていただけるのかを相談すべきであった。どちらもはじめてのことでどういった対応をすべきかわからなかった。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	当NPO法人は、補助金もなく自主運営で行っているので、補助金の額が全体の 1 / 2 だけだとなかなか自分たちが自己資金を出せる金額で行うようになってしまいます。 しかし、今回のような事業に限らず、視覚障害者への理解を広め、視覚障害者が充実した日々を送ることができるため事業を企画していきたいと考えています。その中で、市と協働でできるものがあれば提案していきたいと思えます。

平成 2 1 年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	「山田地区伝統芸能まつり」と地域交流
団体名	N P O 法人川越市北部地域ふれあいセンター運営協議会
市担当課名	市民活動支援課
事業の目的	山田地区に伝わる伝統芸能を後世に引き継いでいくため、地域の子どもたちへ技術伝承を図り、その成果を発表する場を設け、地域住民に周知することで郷土の文化を残していく。
事業の実施内容	平成 2 1 年 1 0 月より各団体による稽古（伝統芸能の伝承）開始 月 2 回程度、稽古場所：川越市北部地域ふれあいセンター（ホール） 山田地区伝統芸能まつりと地域交流の実施 開催日時：平成 2 2 年 2 月 2 8 日（日）午前 1 0 時から午後 2 時まで 開催場所：川越市北部地域ふれあいセンター 参加者数：3 0 0 名程度（参加団体を含める。） 参加団体 出演団体順 石田はやし連（10時30分～10時50分）、 上寺山ささら獅子舞（10時55分～11時35分）、 府川はやし連（11時40分～12時）、 石田ささら獅子舞（12時05分～12時35分）、 北山田囃子保存会（12時40分～13時）、 福田ささら獅子舞（13時05分～13時35分）、 石田はやし連（13時40分～13時50分）
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 地域の伝統芸能団体との調整、会場の貸出、地域住民への周知 等
	川越市の役割 協働に関する情報提供 等
事業の成果	開会前からふれあいセンター入口横に山車（石田自治会所有）を設置し、寄せ太鼓を行う等、“地域の祭り”をアピールした。 その結果、当日は悪天候にもかかわらず参加者数は地域住民や参加団体合わせて3 0 0 名以上の参加をいただいた。 山田地区に伝わる伝統芸能のうち、お囃子や獅子舞のみなさんを一堂に会して演技の披露をしていただくことで、村祭りの雰囲気の子どもたちに体験してもらった。各出演団体についても演技の披露に向けて、地域の子どもたちに参加してもらい技術伝承を図れる等の成果がありました。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協働事業として継続していく場合は、地域の各種団体の協力が必要な事業であり、団体との事前調整が課題となる。団体に対し支出する経費や人員の協力について、団体を集めた上で十分な調整を行うことで対応していく。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	協働事業補助金が終了してもN P O 法人の自主事業として継続していきたいと考えるが、各団体の協力が必要や経費の面から規模を含め検討を要する。地域住民が集い交流が図れること等によって、“子どもたちが安心して暮らせる山田地区”を目指していくため継続していきたい。

様式第 8 号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成 2 1 年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	展示用 2 t 車による移動式展覧会
団体名	特定非営利活動法人 あいアイ
市担当課名	障害者福祉課
事業の目的	団体に所属する知的障害者が作成した絵画について、展示用車両を使い移動式展覧会を行うことによって、幅広い方に作品を見ていただく。
事業の実施内容	<p>・申し込みを受け、打ち合わせ・調整のうえ、作品を積んだ展示用 2 t 車により、各所において展覧会の出前を行いました。 1 回あたり 2 0 作品を 2 時間、半日、1 日のいずれかのプログラムで展示しました。 参加・展示場所：川越産業博覧会、川越唐人揃いほか計 2 5 か所（うち補助対象 1 4 か所）</p> <p>・マスコミからの取材があったこともあり、6 8 件もの問い合わせを受け、予定の 1 0 件の倍以上実施しました。</p>
事業実施時における市との役割分担	【市民活動団体等の役割】 展覧会の出前の受付、調整、展示用車両の派遣
	【川越市の役割】 障害者施設の紹介
事業の成果	<p>・小さな画伯（ハンディキャップ・アーティスト）たちが、積極的に社会対応が、少し出来るようになった。（日本代表として、上海万国博覧会に参加することとなりました。（2 0 1 0 年 5 月～1 0 月まで））</p> <p>・川越のイベントにも参加し、交流が密となりました。</p> <p>・絵画のアート性が高く評価されました。</p> <p>・マスメディアによる取材・報道により広く一般に告知することができ、予想を上回る依頼がありました。</p> <p>・反面、それらの依頼に対応するため、6 8 件の依頼を 2 5 件まで絞り込ませてもらったものの、資金不足となりました。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>依頼が予定を大きく上回り、運転手手配に苦慮しました。また、件数が予定を上回ったことから、資金不足となったことは、課題です。 今後、訪問先として学校関係への訪問を考えていきたいです。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	依頼は続いているため、移動絵画展は継続していきたい。